橋本先生のご退任にあたって

人間総合学部社会学科　俵　　希實

橋本先生は，本学に社会学科が設置された2012年に赴任され，４年間，本学でお働きになられました。

橋本先生は社会学一筋にご研究を続けてこられ，多くの業績を残されております。特に，コミュニティに関するご研究に情熱を注いでこられ，その成果は社会学会で高く評価されております。コミュニティに関する研究者として社会にも貢献され，石川県や金沢市の審議会等の委員をつとめられました。本学では，「社会学概論」「地域社会学」「都市社会学」などをご担当され，豊富な知識と教養を学生に伝えてこられました。

社会学科にとりましても先生は貴重な存在でいらっしゃいました。設置されたばかりの社会学科は，学科として検討しなければならないことが多くあり，それは現在まで続いております。学科会議の際には，豊かなご経験に裏打ちされた有益なご教示を何度もいただきました。先生は多くご発言はされず，私たちの意見をじっと聞いておられ，議論が行き詰った頃に，ご発言されます。それも決して強く主張されず，常に私たちの意見を尊重して下さいました。

私自身，橋本先生の教え子です。先生との思い出は数々あります。私が先生の下で研究をしている時に，先生から何度も発せられた問いがあります。それは，「どこが社会学的なの？」「もっと社会学的にならないの？」という問いです。その問いによって，私は「社会学的」とはどういうことなのかを常に考えるようなり，社会学という学問の深さやおもしろさを認識することができるようになりました。現在，私が研究者として社会学分野の末席を汚すことができているのも，この問いの大切さを教えていただいたおかげだと思っております。

本学に社会学科が誕生し，同じ大学で働くことになりました。まったくの偶然で，知った時は驚きました。同じ職場となりまして，学科用務のことなどで先生の研究室をおたずねした際，先生のご研究や私の研究，共通の知人である社会学研究者の近況などについてお話しする機会が何度かあり，その時間は私にとりまして大変楽しい時間でした。忙しくても研究を続けていくようにと励ましても下さいました。また，経験の浅い私を学科長として認めてくださり，気遣って下さったことに対しましても感謝いたしております。

今後は，先生から教えていただいた社会学を私なりに学生に伝えていくこと，学科運営に反映させていくことができればと思っております。

社会学科の基礎作りにご尽力いただいた先生が去られるということで，大変寂しくはございますが，先生には今後とも社会学科の行く末を見守っていただき，厳しい叱咤と暖かい激励 をお願いいたします。先生の４年間のお働きに感謝しますとともに，これからの先生の人生のさらに実り多きことを祈念いたします。

履歴・研究業績

氏　　名：橋本　和幸

所　　属：人間総合学部 社会学科

専門分野：現代社会論

研究・指導分野：社会行動論　社会組織論

担当科目

〈本学〉	社会学概論　社会学理論　社会政策論　都市社会学　専門ゼミⅠ・Ⅱ
〈大阪大学・非常勤〉	社会変動論（大学院とも）
〈北海道大学・非常勤〉	社会学特殊講義（大学院とも）
〈ノートルダム清心女子大〉	社会行動論　社会組織論（大学院とも）
〈金沢大学〉	社会学概論　社会行動論（大学院）

学　歴

兵庫県朝来郡和田山町（現・朝来市和田山町）立枚田小学校、兵庫県城崎郡香住町（現・美方郡香美町香住区）立香住第一中学校、兵庫県立姫路西高等学校を卒業。

1966年３月　大阪大学文学部（哲学科）卒業
1968年３月　大阪大学大学院文学研究科哲学専攻（社会学専修）修士課程修了
1968年４月　同上博士課程進学
1969年３月　同上中途退学

職　歴

1969年４月　和歌山大学助手（教育学部、社会学）
1973年４月　同上助教授
1981年４月　桃山学院大学講師（非常勤、～83年）
1983年４月　三重大学講師（非常勤・集中講義）
1984年４月　金沢大学助教授（文学部社会行動学講座）、同大学院文学研究科担当
北陸大学講師（非常勤、～87年）
1988年４月　三重大学講師（非常勤・集中講義）
1989年11月　金沢大学教授（文学部動態社会学講座）
1991年４月　愛知大学講師（非常勤・集中講義93,95年）
大阪大学講師（大学院、非常勤・集中講義）
1992年11月　大学設置審判定（金沢大学大学院社会環境科学研究科後期博士課程教授）マル合
富山大学講師（非常勤、～94年）
1993年４月　金沢大学大学院社会環境科学研究科後期博士課程創設に伴い、社会行動論Ⅰ・Ⅱを担当
北陸学院短期大学講師

（非常勤、～94年）
1994年４月　金沢経済大学（現・金沢星陵大学）講師（非常勤、～97年）
1996年４月　金沢大学文学部人間学科学科長
1998年４月　北海道大学講師（非常勤・集中講義）
2000年４月　石川県立看護大学（非常勤、～08年）
2007年３月　金沢大学定年一年前に自己都合退職
2007年４月　大学院文学研究科社会文化学専攻を設置するため、ノートルダム清心女子大学教授（文学部・大学院）として赴任
2008年４月　金沢大学名誉教授
2009年４月　ノートルダム清心女子大学評議員
2010年３月　ノートルダム清心女子大学定年退職
2010年４月　ノートルダム清心女子大学院講師（非常勤・集中講義、～14年）
2012年４月　北陸学院大学教授（社会学科）
2016年３月　契約年度満了により、同上大学退職予定

学会等における活動・役職歴、社会的活動

日本社会学会：文部省科学研究費諮問委員（1991～97年）
学術審議会：専門委員（1995～97年）
日本学術振興会：特別研究員審査会専門委員（1997～99年）
関西社会学会：理事（1988～91年）（1995～98年）（2001～2004年）
㈱開発計画研究所（東京）　珠洲地域振興可能性調査・基本問題研究会委員（1992～93年）他

県・市での活動

石川県：県防災会議専門委員　県史調査委員　他
金沢市：市旧町名復活審議会会長（2004～2014年）
市小中学校通学区域審議会委員（2004～現在）
市学生のまち推進会議座長（2010～2014年）
その他各種検討会議座長・委員長

業　績

著　書

単著　『社会的役割と社会の理論』　恒星社厚生閣　１～218頁　1989.
『地域社会に住む』　世界思想社　１～250頁　1995.
『コミュニティの理論と実際』　大学教育出版　１～156頁　2008.
『社会学をする－ある社会学徒のつぶやき－』　北陸学院大学・短期大学部個人研究費　１～116頁　2015.

共著　『地域政策と山村コミュニティ』　多賀出版　１～468頁　1984.
『定住の社会学的研究』　多賀出版　１～561頁　1988.

共編著『混住化社会とコミュニティ』　御茶の水書房　１～430頁　1985.
『社会学の焦点を求めて』　アカデミア出版会　１～372頁　1986.
『社会学の理論』　有斐閣　１～394頁　2000.
『高齢化社会と生活選択』　多賀出版　１～437頁　2002.

共同監修『石川県年表』（平成編壱）　石川県　2005.

翻訳書『ホモ・ソシオロジクス－役割と自由』　ミネルヴァ書房　１～174頁　1973.
『ユートピアからの脱出』（共訳）　ミネルヴァ書房　１～207頁　1975.
『価値と社会科学』（共訳）　ミネルヴァ書房　１～212頁　1976.

辞（事）典項目

ザンダー　『社会科学大事典』第８巻　鹿島研究所出版会　1969.
役割遂行　役割緊張、他　『新社会学辞典』有斐閣　1993.

研究論文（査読あり）

「統合モデルと闘争モデル――ダーレンドルフの折衷主義」『社会学評論』第19巻第３号　58～63頁　1969.
「現代経営社会学考」『ソシオロジ』第15巻２号　166～182頁　1970.
「役割概念の歴史的性格」『ソシオロジ』第19巻１号　１～19頁.
「現代農村における支配の実態」『社会学評論』第31巻第４号　51～74頁　1981.

「ルネッサンス？」(Doing Sociology)『ソシオロジ』第37巻２号　127～132頁　1992.
「コミュニティ形成のエートスー戦前期・金沢市方面委員の実践から」『日本の科学者』Vol.35, No.6　2000.
「老い」と「成熟」－新たな文化の創造－2008文化における老い『国際シンポジウム論文集』 181～202頁　2008.

その他の論文

「龍神村の過疎の実態」『過疎山村と民主村政への道』第１章　汐文社　1974.
「役割と人間」『現代社会学の人間的考察』 アカデミア出版会　25～46頁　1977.
「現代農村と支配」『現代社会と社会学的分析』アカデミア出版会　183～204頁　1978.
「地域(2)－混住化」『現代日本の構造変動』 世界思想社　102～122頁　1990.　1989年度関西社会学会シンポジウム
「都市の住民生活とアメニティ」『金沢－伝統・再生・アメニティ』 御茶の水書房　189～212頁　1991.
「能登が継承する家の連続性と近隣関係」AERAMook12『社会学が分かる』 朝日新聞社　82～86頁　1996.
「月ヶ瀬村はそこにもある」『This is 読売』12月号　読売新聞社　116～122頁　1997.
「伝統と近代のはざまで－ゆるやかに多分化する石川の家族」家族社会学研究シリーズ②『日本の家族と地域性』(上) ミネルヴァ書房　167～191頁　1997.
「『旅』であり『異化する』作業として」AERAMook『新版社会学がわかる』 朝日新聞社　80-84頁　2004.
「旧町名の復活に取組む金沢市」『都市問題』４月号　63～67頁　2006.

他80編

研究報告書

『紀伊半島内陸部総合開発調査自然環境整備調査報告書』 環境庁　1973.
「農業協同組合機能の社会学的分析」(共同執筆)『協同組合奨励研究報告』第５集　195～213頁　1979.
「第三次全国総合開発計画における地域政策とコミュニティの諸問題」『1979-80年度文部省科学研究費（試験研究１）報告書』 代表：橋本和幸　1981.
「能登中部モデル定住計画－七尾・鹿島圏域の場合」『日本海文化』 1986.
「地方定住圏計画と地域住民の対応」『1985-86年度文部省科学研究費（総合研究A）報告書』代表：橋本和幸　1987.
「定住にみる地域社会の構造と変動」『金沢大学日本海域研究所報告』第19号　1987.
「能登島の社会構造」『むら研究会会報』４　1988.
「わが国における伝統的都市の再生とアメニティの探求に関する実証的研究」『1988-89年度文部省科学研究費（総合研究Ａ）報告書』 代表：二宮哲雄　1990.
『生涯学習活動重点地域整備計画策定報告書』石川県　1990-92.
『平成４年母子世帯・父子世帯及び寡婦世帯実態調査報告書』 石川県　1992.
「北陸地域における定住とアメニティに関する総合的研究」『1991-93年度文部省科学研究費（総合研究Ａ）報告書』 代表：橋本和幸　1994.
「地域社会の変貌と社会福祉（１・２)」『平成９-11年度科学研究費補助金（基盤研究Ｂ２）報告書』 代表：橋本和幸　2000.
「中世タウン・ボストンの現在」「コンフリクト処理の複雑・オープンシステム」『平成11-13年度科学研究費補助金（基盤研究Ｂ２）報告書』代表：岩本健良　2002.
「学校教育環境整備」『金沢市教育委員会五十年史』 金沢市教育委員会　329～431頁　2005.
『金沢市におけるコミュニティの実態と市民意識の分析』 金沢市と金沢大学社会学研究室の共同研究報告書（橋本和幸、田邊浩編集）１～381　2007.

研究発表（司会・座長は省略）

ダーレンドルフの折衷性について　第19回関西社会学会大会　1968.
Homo Sociologicusについて　第21回関西社会学会大会　1970.
和歌山県の青年集団－明治後期から大正期　第２回むら研究会大会　1976.

社会学理論の展開軸（重点部会、討論者） 第27回関西社会学会大会 1976.
産業化にともなう地域社会の変容（シンポジウム、報告者） 第30回関西社会学会大会 1979.
明治末における農村計画（1981年度共通課題）農村計画－農村自治の課題の展開として 1981年度村落社会研究会大会 1981.
過疎山村地域における民間活力の導入について（討論者） 日本計画行政学会第５回全国大会 1982.
地域政策と山村コミュニティ（三上勝也と共同発表） 村落社会研究会東海・関西地区研究会 1984.
能登島の社会構造 第27回むら研究会 1987.
現代日本の社会変動（シンポジウム、報告者） 第40回関西社会学会大会 1989.
能登の自然と社会構造 珠洲地域振興可能性調査・第２回基本問題研究会 1992.
日本の家族と地域性（セッション部会、報告者） 第５回日本家族社会学会大会 1995.
コミュニティ・ロスト？ 村落社会学会中部・近畿部会 1996.
戦前期・金沢市方面委員の実践から 第19回日本海シンポジウム 1999.
コミュニティ論再考 2002年度北陸社会学研究会 2002.
コミュニティ概念の検討 第13回大阪大学社会学研究会 2006.
「老い」と「成熟」－新たな文化の創造－ 国際シンポジウム 輔仁大学日本語文学科（台湾） 2008.
コミュニケーション（論）とコミュニティ（論）－現代社会論的視角－ 金沢大学人間社会研究科経済学専攻企画 シリーズ講演会『学際総合の方法』 2013.

講演等

コミュニティのあり方 富山県入善町町役場 1977.
くらしを考える――社会的連帯意識を高めるため 和歌山県かつらぎ町妙寺公民館 1979.
山間地域における生活環境整備の必要性と住民の役割 和歌山県那智勝浦町大野保郷会館 1982.
青少年の自殺をめぐって（シンポジウム） 精神衛生研究会 石川県社会福祉会館 1987.
社会の変動と家族 金沢家庭裁判所大会議室 1987.
いま地域の中で公民館は（シンポジウム） 金沢市公民館大会 金沢市中央公民館 1987.
環境と青少年をめぐって 青少年活動指導者セミナー 石川県青年会館 1990.
地域の教育力 石川県河内村福祉会館 1991.
金沢市公民館主事研修会（助言者） 金沢市中央公民館 1994.
地域安全活動を考える（シンポジウム） 石川県防犯協会連合会 金沢アートホール 1994.
最近のコミュニティ事情から 地方シンクタンク北陸ブロック 第５回交流会 1995.
防災フォーラム・金沢トーク＆トーク 金沢市金沢市文化ホール 1999.
日本の文化の現状－家と家族の場合 珠洲市若山公民館 1999.
日本の文化の現状 石川県 石川県厚生年金会館 2000.
若者をとりまく現代の風俗 青少年活動指導者セミナー 石川県青少年総合研修センター 2002.
中学校通学区域の弾力化を考える市民フォーラム（コーディネーター） 金沢市文化ホール 2005.
家族はいま 金沢みなとロータリークラブ 金沢全日空ホテル 2005.
現代社会における若者文化 石川県選挙管理委員会 粟津温泉のとや 2005.
変貌する近代家族――細分化と多様化 ノートルダム清心女子大学公開社会人講座 2008.
金沢コミュニティと町内会 金沢市中央公民館 2009.
変貌する家族と地域コミュニティ 金沢大学地域連携推進センター 2009.
旧大和小松店跡地活用について（全体討論委員） 2014. サイエンスヒルズこまつ「ひとともものづくり科学館」

他.

戸田教一先生への謝辞

人間総合学部幼児児童教育学科　金丸　洋子

戸田教一先生は2016年３月をもって退任なされます。

戸田教一先生は2008年４月の本学開学以来、北陸学院大学人間総合学部幼児童教育学科教授として教壇に立ってこられました。また、2011年からは北陸学院小学校長を兼務なさいました。

本学並びに北陸学院小学校の教育・研究に並々ならぬご尽力をつくされましたことに深く感謝を申し上げます。

戸田教一先生は1963年金沢大学教育学部卒業後、金沢市立各小学校教諭・教頭・校長を歴任し、三度に亘り金沢市教育委員会指導主事として教員の指導や教育行政にあたってこられました。その間、科学技術庁長官賞をはじめ各種賞を受賞し、石川県の教育界において多大な功績を挙げられました。

北陸学院大学に奉職された当初は学科長として学生募集や、幼小連携のために尽力され、幼稚園協会の研修会講師や幼児の科学遊び教室を各幼稚園で実施するなど、幼小の子どもたちに科学遊びの面白さを伝える活動につとめられました。特にエンジョイミッションでは、水ロケット発射実験、熱気球の実験、ミニホバー実験、空気砲等々、子どもたちに科学のふしぎを体験させ、興味関心を広めることに努力されてきました。

本学では、教員免許更新講習にも毎年「理科嫌いをなくす12の方法」と題して講座を開き、県下の幼・小・中・高の先生方に「楽しい理科教育」の普及を図って来られました。

戸田教一先生は、「科学的リテラシーの育成」や「持続可能（ESD）な社会を創る理科教育」を研究・指導分野となさっておられます。特筆すべき点として、常に子どもを中心に据えての研究であることが挙げられます。未来を生きる子どもたちに育てなければならない力、そのために教師の果たす役割や大学の果たす役割について研究・実践を続けられ大きな成果をあげられました。おもしろ実験やものづくりの開発、大学研究室内に開設したエコおもしろ実験室がいつも子どもたちや学生の楽しい学びの場であったこと等もその一例です。

学院内においては、北陸学院小学校校長就任と共に学院の理事評議員として学院運営に関わり、貢献して来られました。特に北陸学院130周年事業や小学校改革には、その立場から実現のために労されました。

また、人材育成においても多大な尽力をなさいました。小学校教諭養成課程の複数科目を担当し学生の資質能力の向上はもちろんのこと、教育委員会や学校との連携をもとに小学校学習支援ボランティアと教育実習を一体化するなど、大きな貢献をなされました。

学外でのご活躍は数限りなく全てを語りつくすことはできません。何事にも誠心誠意つくされる戸田教一先生の高邁な精神があってのご活躍と存じております。本学を退官なされても、後に続く私たちを導いてくださることをお願いするとともに、ご健康とご活躍を念じてやみません。

履歴・研究業績

氏　　名：戸田　教一

所　　属：北陸学院大学人間総合学部幼児児童教育学科（教授）兼北陸学院小学校（長）

専門分野：理科教育　教育行政

研究・指導分野：科学的リテラシーの育成　持続可能な社会を創る理科教育

担当科目

〈本学において〉

小学校理科　理科教育法　特別活動の研究　教育実習　教育実習指導　道徳教育の研究
教職実践演習　専門ゼミⅠ・Ⅱ　北陸学院小学校全体校務統括

〈他大学において〉

学　歴

昭和43年３月　金沢大学教育学部卒業

職　歴

昭和43年４月　金沢市立各小学校教諭歴任
昭和63年４月　金沢市教育委員会指導主事拝命
平成４年４月　金沢市立押野小学校教頭拝命
平成７年４月　金沢市教育委員会参事・担当課長拝命
平成９年４月　金沢市立明成小学校校長拝命
平成13年４月　金沢市教育委員会担当次長・学校指導課長拝命
平成15年４月　金沢市立諸江町小学校校長拝命
平成17年４月　石川県市町村教育委員会連合会主事拝命
平成18年４月　金沢子ども科学財団啓発デイレクターとして着任。
平成20年４月　北陸学院大学教授として着任
人間総合学部幼児児童教育学科長を拝命
平成23年４月　北陸学院小学校長を兼務
北陸学院常務理事就任
平成28年３月　北陸学院大学教授兼小学校長退任

学会等における活動・役職歴、社会活動

１）金沢市小学校校長会会長　金沢市小学校理科部会部長　科学教室代表室長各暦任　法務局人権擁護委員　金沢市学校関係評価委員　金沢市子ども科学財団運営委員会議長　白山市学校施設適正規模検討委員会副委員長　日本基督教学校教育同盟関西地区小学校部会委員長　日本理科教育学会会員

業　績

日本理科教育学会全国大会で平成24．25年度発表

日本基督教学校同盟関西地区小学校部会平成26年度発表校
北陸学院大学教員免許更新講習平成22年～27年実施講師務む。

著書・教科書

1）石川の理科ものがたり　共著　昭和56年８月　日本標準
2）金沢市教育委員会50年史　共著　平成17年３月　金沢市教育委員会発行
3）母と子の理科教育　単著　平成17年３月　山越印刷
4）虹の錯塩に関する実験と諸考察　単著　昭和53年３月　石川県教育センター発行
5）理科授業研究　共著　昭和57年６月　明治図書
6）楽しい理科授業　共著　平成10年２月　明治図書
7）学校運営研究　共著　平成11年４月　明治図書
8）発信型の学びをめざして古都金沢発自力解決できる子　共著　平成11年６月　明治図書

翻　訳

1）

事典項目

1）総合的学習　実践研究情報なんでも事典　共著　平成11年12月　明治図書

教　材

1）理科の学習帳作成
2）「若き理科教師のために」作成
3）北陸学院大学「特別活動の研究」テキスト作成

研究報告書

1）日本理科教育学会全国大会　平成24年８月「理科教育におけるＥＳＤ構想具現化の試み」発表論文
2）日本理科教育学会全国大会　平成25年８月「教育研修におけるコアサイエンス教師の役割」発表論文

研究論文

1）授業の質的改善による教師の育成　平成12年５月発行　第一公報社

その他の著作

1）創造と感動の教育　明治図書
2）特別活動の目標分類　明成小研究紀要

研究発表

1）日本理科教育学会全国大会平成24・25年度研究発表

講　演

1）石川県教育振興会座談会「いのちの尊厳を考える」座長を務める。
2）石川県私立幼稚園協会夏期研修会「水と空気の不思議に触れるあそび」講演
3）「自然の不思議に学ぶ」輪島高校
4）「わくわく理科教室」浅野川小学校
5）「自然の不思議を見つけよう」扇台小学校
6）「楽しい理科実験教室」長坂台小学校
7）「体験、感動、創造への道」北陸学院高校
8）「自然の不思議に学ぶ子をどう育てるか」北陸学院小学校
9）「空気のふしぎにチャレンジ」弥生小学校
10）「学級活動を基にした教科指導」－理科を中心として－富樫小学校
11）「子どもを育て学校・地域・家庭をつなぐ楽しい遊びやものづくり」金沢市青少年健全育成推進大会
12）「子育てにおける大人の役割」戸板校区子育てよろず講座
13）「聖書に学ぶ五感を磨く自然体験と親子の対話」北陸学院小育友会

髙一男先生の教育・研究歴

人間総合学部社会学科　小林　正史

髙先生は、上智大学において歴史学を専攻し、卒業研究では朝鮮、中国、日本の比較研究を行った。大学院に進学後、このような研究歴をみた白鳥芳郎先生に東南アジア調査に誘われ、上智大学西北タイ歴史文化調査団の一員として、1971年10月～1972年２月の第二次調と1973年12月～1973年２月の第三次調査に参加された。これら調査において、髙先生はヤオ族をはじめとする少数民族の多くの集落を訪問し、習俗を記録された。

修士課程を修了後、1975年から社会科教員として石川県教育委員会に奉職された。最初の3年間は文化財保護課において埋蔵文化財の調査・研究に従事された。この時期は、北陸自動車道関連の調査をきっかけとして石川県教育委員会に文化財保護課ができてから間もない頃であり、発掘調査体制が十分でなかった。民間研究団体である石川県考古学研究会のメンバーが実質的な発掘調査の主体となり、県の保護課の職員は彼らと一緒に調査と指導を行うという、苦難の時代だった。髙先生は、松任市千代野ニュータウン遺跡など多数の遺跡の調査を担当された。髙先生が高校に移られた翌年の1979年に県立埋蔵文化財センターが設立されて発掘調査体制が徐々に整ったことから、髙先生は石川県の埋蔵文化財行政の一番大変な時期を担われたといえる。

33年間にわたる高校教諭時代の後半期には「野外調査研究会」の会長を務められた。この研究会は、県教育委員会が主催する地理教員の研究会であり、現在に至るまで研究発表会の開催（年に１～２回）や共同調査の実施などの活発な研究活動を続けている。共同調査は、毎夏、県外に調査地を選び、数名～十数名の地理教員が各自の関心分野を分担して担当して調査を行い、その結果を研究会で報告している。髙先生が会長の期間中に新聞社から表彰されたことに示されるように、この研究会活動は教員の教育の質を高めるのに大きく貢献してきた。また、田鶴浜高校と鹿西高校において校長を務められた。

2009年から北陸学院大学進路指導部で特任教授として３年間務められた後、2012年に社会学科の創設に伴って社会学科教授として赴任された。授業では公民科の教職課程科目と東南アジア文化論（文化人類学）を担当され、さらに、図書館長を務められた。図書館長として、①教職員の研究紹介や推奨図書の展示を行うコーナーの開設、②図書館サポーターの設立（図書館のＰＲを目的として、星野富広氏・上野千鶴子氏などの特別展示コーナーの作成、年２回の学生選書ツアー、おすすめ図書のポスター作り、などの活動を行う）、③昼の学生講座（学生が企画して図書館２階で昼休みに絵本読み聞かせ、教職課程の生活科指導案の発表会、リースブローチ作りのワークショップなどの講座を開催）、④北陸学院ブック・プロジェクトの創設（教職員、学生、保護者から、古本などを集め、その収益を寄付）、⑤北陸学院大学リポジトリーを開設し大学研究紀要を公開、などの多くの新規事業を立ち上げられた。

最後に、北陸学院大学での髙先生の研究については、タイ・ラオス・ミャンマー北部の黄金の三角地帯において毎年１～数回の調査を継続されてこられた。これらの調査は、冒頭に記した学生時代の調査（1971～1973年）の継続であり、約40年間の文化変化を記録・分析している点で非常に興味深い。特に、少数民族の生活が近年、中国の経済政策の影響により、大きく変容している点を報告されている。これらの調査では、十数時間に及ぶ長距離バスでの移動など、非常にタフな行動に驚かされる。これらの調査成果の一部は、上述した「ヘッセル図書館の教職員展示コーナー」において現在展示されている。今後も、より自由に、より活発に調査を続けられることを期待しています。

履歴・研究業績

氏　　名：髙　一男

所　　属：人間総合学部　社会学科

専門分野：東洋史　文化人類学

研究・指導分野：東南アジア少数民族誌　公民科教職課程

担当科目：

〈本学において〉

「社会学リレー講義」「プロゼミＢ」「海外から見た日本」「公民科教育法Ⅰ・Ⅱ」「専門ゼミⅠ」「専門ゼミⅡ」「教職実践演習」

学　歴

昭和42年４月　上智大学文学部史学科入学
昭和46年３月　上智大学文学部史学科卒業（文学士）
昭和46年４月　上智大学大学院文学研究科史学専攻入学
昭和49年３月　上智大学大学院文学研究科史学専攻修了（文学修士）

職　歴

昭和50(1975)年４月　石川県教育委員会事務局文化財保護課　主事
昭和53年４月　石川県立門前高等学校　教諭
平成元年４月　石川県立金沢泉丘高等学校　教諭
平成４年４月　石川県立七尾高等学校　教諭
平成13年４月　石川県立輪島高等学校　教頭
平成15年４月　石川県立田鶴浜高等学校　校長
平成18年４月　石川県立鹿西高等学校　校長
平成21年４月　北陸学院大学進路指導アドバイザー兼特任教授
平成24年４月　北陸学院大学人間総合学部社会学科　教授
平成24年４月　北陸学院大学ヘッセル記念図書館館長

学会等における活動・役職歴、社会貢献

全国高等学校長協会看護部会北信越支部長（平成15年４月～平成18年３月）
石川県野外調査研究会会長（平成17年４月～平成20年３月）
石川県高等学校家庭科研究会会長（平成18年４月～平成20年３月）
石川県高等学校地歴科・公民科教育研究会会長（平成19年４月～平成20年３月）

業　績

著書・教科書

・『松任市徳光ヨノキヤマ遺跡―主要地方道金

沢・小松・加賀線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書』　昭和51年２月　石川県教育委員会発行
・『穴水町・白山橋遺跡調査報告―小又川河川改修工事に係る緊急発掘調査報告書』 昭和52年３月　石川県教育委員会発行
・『羽咋市寺家チョウエイジ遺跡―圃場整備事業に係る緊急発掘調査報告書』 昭和53年３月　羽咋市教育委員会発行

共　著
・『ふるさと加賀・能登　～身近な地域の地理巡検～』 昭和56年６月　東京法令出版　p.231～p.252

辞（事）典項目
・『角川　日本地名大辞典　17　石川県』 昭和56年７月　角川書店　地誌編［鳳至郡］門前町

研究論文
・「新疆ウイグル自治区におけるオアシス灌漑農業について」 研究紀要　第二集（石川県立門前高等学校　1986年３月　p.84～p.102

その他の著作（小論：）
・「我々にとって真の豊かさとは」
石川県立田鶴浜高等学校『鶴声』第27号　平成16年２月25日　p.2-3
・「自ら限界を作ることなく活躍を」
石川県立田鶴浜高等学校『鶴声』第28号　平成17年２月25日　p.2-3
・「巻頭言」
石川県立田鶴浜高等学校『紀要』第15号　平成17年２月25日　p.1
・専攻科海外研修旅行報告
石川県立田鶴浜高等学校『紀要』第15号　平成17年２月25日　p.21-29
・「序文」
石川県高等学校野外調査研究会『石川地域研究』第19号　平成17年３月31日　p.1
・「逆境を成長の糧に」
石川県立田鶴浜高等学校『鶴声』第29号　平成18年３月１日　p.2-3
・「序文」
石川県高等学校野外調査研究会『石川地域研究』第20号　平成18年３月31日　p.1
・「序文」
石川県高等学校野外調査研究会『石川地域研究』第21号　平成19年３月31日　p.1
・「歴史を見る目」・「世界を見る目」
石川県立鹿西高等学校生徒会『麻』第31号　平成19年３月２日　p.4-5
・「読書について」
石川県立鹿西高等学校図書館報『麻の花』第11号　平成19年３月２日
・「豊かさと環境問題」
石川県立鹿西高等学校生徒会『麻』第32号　平成20年３月　p.4-5
・「本の思いで」
石川県立鹿西高等学校図書館報『麻の花』第12号　平成20年３月
・「はじめに」
石川県高等学校地歴科・公民科教育研究紀要第41号　平成20年３月
・「退職雑感」
石川県高等学校長協会「会誌」第43号　平成20年３月31日
・「序文」
石川県高等学校野外調査研究会『石川地域研究』第22号　平成20年３月31日　p.1

講　演
・平成26年11月　石川県高等学校地歴科・公民科研究大会「大メコン圏開発と中国の南進政策」
・平成27年７月　北陸学院大学公開講座「黄金の三角地帯に今何が起こっているか」
・2016年１月　金沢市大浦公民館研修会「黄金の三角地帯の過去と現在：麻薬から経済特区へ」

北陸学院大学及び北陸学院大学短期大学部 研究紀要規程

（目的）

第１条　北陸学院大学及び北陸学院大学短期大学部（以下「本学」という。）における研究の成果を発表するために，北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要（以下「研究紀要」という。）を発行する。

（編集等の機関）

第２条　本学研究紀要の企画，投稿論文の募集，編集，刊行は，研究紀要編集委員会（以下「委員会」という。）が行うものとする。

（投稿資格）

第３条　投稿の資格を有する者は，次のとおりとし，投稿は公募形式により行うものとする。

（１）　本学専任教員

（２）　本学非常勤講師

（３）　本学専任職員

（４）　本学院教職員

（５）　その他、委員会が認める者

２　投稿論文が多く，すべてを掲載することが困難な場合は，前項各号の昇順により優先順位をつけるものとする。

（論文の要件）

第４条　本学研究紀要に投稿する論文の要件は，次のとおりとする。

（１）　学術研究に基づく未発表論文であること

（２）　論文以外の創作・翻訳・解説・研究ノート等については，著者の専門に関連したものであって，委員会が適当と認めたもの

２　投稿論文等の数は，原則として，研究紀要各号につき筆頭著者による論文は１編とする。

３　論文の様式は，別に定める「北陸学院大学及び北陸学院大学短期大学部研究紀要執筆要項」により行うものとする。

４　論文１編の長さは，次のとおりとする。ただし，規定頁数を超える場合は，10 頁を限度とし，個人研究費又は共同研究費からの支出若しくは自己負担による増頁を認めることがある。

22 字 ×39 行 × ２段 ×14 頁以内

５　個人研究費又は共同研究費からの支出若しくは自己負担によるカラー印刷を認めることがある。

（論文の採択）

第５条　投稿論文の掲載の可否は，委員会が決定する。

２　委員会は，論文掲載にあたり，一部修正，書き直しを求めることがある。

３　論文掲載の順序は，委員会が決定する。

（著者校正）

第６条　著者校正は，再校までとする。その後の校正は，字句の修正以外は原則として認めない。

（別刷り）

第７条　掲載された論文１編につき別刷り 30 部を作成する。

２　執筆者は，個人研究費又は共同研究費からの支出若しくは自己負担により，30 部を超える別刷りを請求することができる。

（著作権）

第８条　掲載論文の著作権は，委員会に属するものとする。ただし，執筆者は委員会に連絡することによって，自分の論文を転載・複製等の形で利用することができる。

（規程の改廃）

第９条　この規程の改廃は，委員会の議を経て，大学評議会が行うものとする。

附　則

１　この規程は，2011（平成 23）年４月１日より施行する。

２　この規程の施行に伴い「北陸学院大学紀要規程」及び「北陸学院大学短期大学部紀要規程」は廃止する。

研究紀要編集委員

髙　　一　男　TAKA, Kazuo

大　井　佳　子　OOI, Yoshiko

橋　本　和　幸　HASHIMOTO, Kazuyuki

坂　井　良　輔　SAKAI, Ryosuke

朝　倉　秀　之　ASAKURA, Hideyuki

北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要
第８号（2015年度）

発行日　2016年（平成28年）３月４日

発行者　北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部
〒920-1396
石川県金沢市三小牛町イ11番地
TEL（076）280-3850㈹

印　刷　ハヤシ印刷紙工株式会社
〒921-8026
石川県金沢市糸田新町３-10
TEL（076）247-4433㈹